■主な質疑応答の内容について

八丁平住民説明会における、ご質問及び回答の要旨を掲載しております。

調査結果について		
1	ご質問	ダストについて、詳しく教えてほしい。スラグと認識してよいか。
	回答	ダストとは、鉄の生成工程で発生するガスの中に含まれるもので、スラグとは別物です。 スラグとは、鉄の生成過程でシリカ等、鉄以外の成分が石灰と溶融結合した副産物です。
2	ご質問	企業や下請け会社も含め、当時、色々な人が物を捨てていたときいているが、違法投棄はないのか。他の場所に捨てていないという判断はどうやって行ったのか。 区画整理の指示を出したのは市であるので、市できちんと対応していただきたい。区画整理事業を行った際に、土が全体に埋め立てられていない、という保証は誰もできないのではないか。 住んでいる人の気持ちとして安心安全が優先するのだから、単に埋め立てしていない、というのでは納得しない。
	回答	航空写真や地歴調査により、埋立区域は確定しております。企業へのヒアリングにより、埋立区域の中で違法投棄があった可能性はある、との話を聞いておりますが、埋立区域の中で、企業とは無関係の方が、埋め立てを行っていたかについては、現在聞き取りしているところです。 当時、埋立区域以外の場所に、下請けの方が捨てていたかどうかについては、不明なことで明らかにするのは難しい状況です。
3	ご質問	当時、汚染土を運搬したトラックが、市内を走り回っている。八丁平だけではなく、他の地区にも拡散しているのではないか。
	回答	当時は区画整理事業の整備前ですので、トラックは、飛行場の滑走路の一部を走行していたと考えられます。しかし現在は、宅地造成が行われ現在の地盤高は、当時の地盤高とは違うため、トラックの走行により拡散したおそれは解消されているものと考えます。
4	ご質問	鉛も濃縮している可能性があるのでは。どうやって調べているのか。
	回答	土壌調査の方法は、法律で定められており、土は、土地を３０m×３０mの四角に区切り、四角の中の５つの地点より採取しています。 １点ごとに表面から５㎝までの土と、５㎝から５０㎝までの土、それぞ

		れ採ったものを同じ量だけ混合し分析しています。 その結果が、前回示した土壌汚染の数値です。
５	ご質問	河川敷の工事を行っているが、土壌検査等は行っているのか。 水が上流から流れてくるので、安全面を考えたら、南公園だけに限らず河川も調べてもらわないと、信用性がない。
	回答	南高平川については、昨年１２月に水質調査した結果、基準値以下であることが判明しました。また、河川周辺に汚染の原因となるような物質がないことからも、汚染の可能性はないと考えております。 しかし、河川上流部に汚染された土壌があることから、河川水質のモニタリングは、将来も行う必要があると考えております。
６	ご質問	ヒアリング調査はどのような形で行ったのか。ヒアリングした人数が２人と聞いて、がっかりした。次回はもう少し人数を増やしてほしい。
	回答	ヒアリングは、八丁平に長く住まわれている、飛行場に詳しい方と、埋め立て地付近に住まわれる方のお二人に対して行いました。少なく感じる方もいらっしゃると思いますが、八丁平は比較的新しく開発された地域であるため、戦中、戦後のことを明確に覚えている方が少ないということもあり、今回はお二人の方からヒアリングを行いました。
７	ご質問	ダストの中にヒ素が含まれるとのことだが、ヒ素はどこからきたのか。
	回答	ダストとは、鉄の生成過程の中で発生するガスの中に含まれるもので鉛、ヒ素はその中に含まれていると考えられます。
８	ご質問	南公園と市有地の土壌調査について、もう少し調査ポイントを増やすことはないのか。
	回答	土地を３０ｍ×３０ｍの四角に区切り、土壌調査を行ったところですが今後、南公園、市有地において、基準値以下だった部分の土地も含め、全体を覆土するという対策を行ってまいりますので、現時点では土壌調査のポイントを増やすことは予定しておりません。
今後の土地調査について		
１	ご質問	汚染の可能性の範囲が限定されたとのことだが、こういう場合、１００パーセントということはない。 八丁平小学校のグラウンド、北公園の土壌調査は行わないのか。
	回答	まず、その土地が過去にどのような使われ方をされていたかを事前に調べることが必要です。北公園や小学校については、企業が埋め立てをしていた、という履歴はないことから、汚染の可能性はないと考えておりますので、調査の予定はございません。 また、汚染区域の確定は、航空写真、企業へのヒアリング、地元に住ま

		われている方へのヒアリングにより行っております。
２	ご質問	土壌調査対象の民有地について、自分の家が対象区域の線から少しずれているが、調査区域を広げる可能性はあるのか。不安なので、調査区域を拡張してほしい。 汚染物が風により拡散した可能性があるということで、１列目が調査対象となっているが、自分の土地は盛土をしているので、風の影響ということではなく、土地を調査していただきたい。 埋立区域にしか捨てていない、というのは納得できない。
	回答	区画整理事業の際に、埋立区域の中にある緑道の土を南公園、市有地に移動させたことが、汚染の原因であり、すでに家が建っていた土地に緑道の土を盛土することはありません。 緑道の整備時、南公園に盛土をした際に、汚染物が拡散している可能性があるので、南公園と市有地に面している１列目の全ての土地に対して調査を行う、というのが今回の民有地調査の主旨です。 よって、１列目を調査し、安全であることが確認されれば、それより離れた場所についても安全と考えられますので、まずは南公園と市有地に面している部分について調査を行ってまいります。
３	ご質問	八丁平に土地を持っており、家庭菜園を行っている。食べるものは安心安全な場所でと思っている。調査区域を拡大してほしい。
	回答	埋立区域については、航空写真や地歴調査により、範囲が確定され、他の地区に土が入っている痕跡は見当たらない状況です。
４	ご質問	現在問題になっている南公園と隣接市有地が大丈夫であれば、問題ないい、と聞こえて非常にやるせない。自分の所がどうなっているのかを心配しているのだから、住人から広く話を聞いて、それをくみ取った形で解決策を考えていただきたい。
	回答	元々の土地が過去にどういう状況であったか、土地履歴を調査することで、汚染の可能性の有無がわかります。汚染の可能性のあるところを中心に、土壌調査を行ってまいります。
５	ご質問	代替公園を造るとのことだが、そこも土壌調査をしないと危険ではないのか。子どもたちが安心して遊ぶことができないのではないか。
	回答	コンコードパーク内に代替公園の設置を予定しておりますが、コンコードパークについては、開発業者の方で自主的に土壌調査を行い、汚染物が含まれていないことが確認されています。 また、もともと畑だったところを商業高校として造成し、汚染物はないということが、地歴からも明らかになっているところです。

今後の対策について		
1	ご質問	南公園について、今後どのような対策を行うのか。立入禁止のままか。
	回答	対策としては５０㎝以上の覆土のほか、アスファルト、コンクリートで舗装し土の飛散や移動を遮断する、といった方法があるので、公園の再開を念頭に置いて、北海道と協議しながら、また皆さんのご意見も伺いながら、安心できるような対策をとってまいります。
2	ご質問	南公園と市有地について、覆土を行うと話が出たが、市有地ではない埋立区域についても覆土を行うのか。
	回答	現在、企業所有地についても、企業の方で自主的に土壌調査を行っており、今後より詳細な土壌調査を行った上で、対策を検討していくと伺っております。
3	ご質問	鉛やヒ素がどのような形で捨てられたのか明らかにしなければ、対策を講じることができないのではないか。単に覆土をすれば良いというものではない。
	回答	鉄の生成過程の中で発生するガスの中に含まれるダストに鉛、ヒ素が含まれていると考えられますことから、今後、覆土あるいは舗装をすることで周辺への飛散は防止できるものと考えております。
健康影響調査について		
1	ご質問	健康影響調査について、前回は子どもが優先という話だったと思うが、どうなっているのか。
	回答	健康影響評価検討委員会において、健康影響調査は就学前、就学中のお子さんについて一定人数が必要と話がありましたので、公園の利用状況を見ながら判断してまいります。
2	ご質問	具体的にどのような症状になるのか。親としては非常に心配だが、調査する気はあるのか。
	回答	具体的な影響については、今回健康影響調査を実施し、医師の意見を聞きながら判断していきたいと考えております。
3	ご質問	八丁平を離れてしまった子どもについて、健康影響調査対象者に選ばれるのか。
	回答	本来は、遠くにお住まいの方も対象に加えたいと考えておりますが、八丁平を離れたいらっしゃる方については、その後の生活状況によって、血液中の鉛やヒ素の量も影響してくると考えられます。 まずは、近隣の方で南公園の利用頻度が高い、お子さんや高齢者の方を対象として健康影響調査を行っていきたいと考えております。

4	ご質問	健康影響評価検討委員会の構成は市役所の人間だけなのか。八丁平の住民は含まれているのか。委員会の専門家というのは、どのような人か。
	回答	委員会の構成員には一般市民の方は入っておりません。医師、重金属に詳しい大学教授、保健所、といったそれぞれの分野の専門家の方により構成されています。 【健康影響評価検討委員会委員】 ・札幌医科大学医学部公衆衛生学講座　森教授 （札幌医科大学附属病院 腫瘍診療センター 院内がん登録室） ・室蘭市医師会理事（小児科医）　田原理事 ・国立大学法人室蘭工業大学（環境工学、化学工学）　大平教授 ・国立大学法人室蘭工業大学准教授（廃棄物工学）　吉田准教授 ・北海道胆振総合振興局保健環境部長（室蘭保健所長）　山本部長
5	ご質問	重金属による中毒のメカニズム等について、専門家に直接説明してもらえると安心できると思うが、そのような機会はあるのか。
	回答	健康影響調査を行い、その結果が出ましたら、先生方に健康影響の評価をしていただきますので、次回の住民説明会のときには、健康影響評価検討委員会の委員長から皆さんにご説明してもらう予定です。
6	ご質問	健康影響調査の対象者は１５０人とのことだが、もう少し枠を増やした方がいいのではないか。１５０人から漏れたら納得がいかない。検査をして大丈夫だということが分かった方が良い。
	回答	東京都の類似した事例において、１５０人に対して健康調査を行っていることから、分析、比較をするために、まずは同程度の人数で健康影響調査を実施してまいりたいと考えております。
その他のご質問・ご意見		
1	ご質問	室蘭全体に企業が物を捨てていたと聞いている。八丁平だけではなく、全市的な問題ではないか。本格的に取り組んでほしい。
	回答	当時、市内の地盤が悪いところや道路整備の際に、地盤改良、路盤改良の資材としてスラグを埋設していると思われます。 企業が土砂の埋め立てを行ったのは八丁平の区域だけときいておりますので、八丁平以外の地区での調査の予定はございません。
2	ご質問	企業が埋め立てを行った土地が市有地になったということは、売買があったということか。
	回答	売買ではなく、区画整理事業において、区画整理事業区域内に道路を造るのと同時に、元々ある土地の移動を行うということをしており、その

		中で、企業所有の土地が市有地になったという経緯になっております。
３	ご質問	企業からもヒアリングしたとのことだが、実際に説明会に企業が来て説明してもらうわけにはいかないのか。
	回答	汚染の原因と範囲の特定については、航空写真やヒアリングによって特定することができましたので、市の方からご説明できると考えております。
４	ご質問	前回の説明会で、土地が売れなくなってしまった、固定資産税払いたくない、と言った声があったが、安心安全というのであれば、風評被害も含め、そういった土地が出ないようにしてもらいたい。
	回答	前回の説明会の中で、八丁平全体が風評被害にさらされている、とご心配されている方もいらっしゃいましたが、必ずしも根拠がある話ではないと思っております。今回の説明会は、汚染の原因と範囲を特定した上で開催しております。 今後、健康調査などを通して全容を明らかにしていきたいと考えておりますので、ご理解の程お願いします。
５	ご意見	事務的に行わずに、住民側に軸足を置いて、親身になってほしい。
６	ご意見	市は、今回の原因も結果も少なく見積もっているのではないか。
７	ご意見	これだけ大ごとになっており、不安に思う方も沢山いるので、市職員の責任問題として、給与や賞与のカットといった提案はないのか。